やまなし医療最前線《5》

県立中央病院から

太もも付け根骨折 治療の計画表

高齢患者に分かりやすく

千野　孔三
整形外科科長

高齢者に多く、寝たきりのきっかけになる大腿骨頸部骨折（太もも付け根の骨折）の治療で、県立中央病院は、患者の治療スケジュールを示した「クリニカルパス」の作成を始めた。手術を行う急性期、リハビリをする回復期の診療を、連携する16医療機関と分担する「地域連携パス」としている点が特徴だ。

大腿骨頸部骨折は足腰の弱い高齢者が転倒した際などに起こる。全治にはおおむね3～6カ月程度かかるが、治療やリハビリがスムーズにいかず、骨折をきっかけに寝たきりになってしまうケースも少なくない。

地域連携パスのシステムの導入は治療段階に応じた質の高い医療を提供し、"早くきれいに治す"診療体制を取ることが狙い。地域での回復期医療を担う病院、整形外科医院など16の医療機関と協力体制を整えた。

患者に渡されるパスはA3判カラー刷り。大まかな治療週数に合わせて、手術、リハビリの具体的内容を記載する。患者には自分の治療スケジュールが見えることで、安心感や目標が生まれるメリットがある。

患者の入院時に医師や看護師、リハビリを担当する理学療法士、ケースワーカーらがチームを組み、回復期診療を行う医療機関と話し合って治療スケジュールを決める。治療経過に関する情報を共有し、症例検討も行う。

導入以前は、手術から退院後の通院診療まで、スムーズにいかないケースが多かった。同システムでは回復の段階に合わせて、医療機関の専門性を生かした診療が可能になる。

患者にとっては、パスを手元に置いておくなどして現在どの段階にあるのか、次にどんな治療・リハビリをするのかがよく分かり、退院に向けての目標を立てることができるようになった。回復期病院への転院も手続きの煩雑さがなくなり、患者の負担が減った。

県立中央病院整形外科科長の千野孔三医師は「大腿骨頸部骨折の場合、治療とリハビリはセットで考えなければならない。各病院が役割を果たすことで、患者さんの回復が早まることが期待されている」と話している。（第2、第4金曜日に掲載します。次回は28日です）

掲載日：2011年10月14日／生活／紙面頁017
紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社